



感染対策だより

院内感染対策委員会発行：第82号 令和8年8月

手足口病

に注意しましょう！！



手足口病は、主に4歳までの幼児を中心に夏に流行する病気です。
2歳以下の幼児が多くかかりますが、学童でも流行することがあります。
また、学童以上の年齢では、多くの人がウイルスに感染しているため、成人では発症するケースは少ないです。
流行ピークは夏ですが、秋から冬にかけても少し見られます。

● 症状

- ・ 発熱
- ・ 口腔内の水疱性発疹
- ・ 全身倦怠感
- ・ 下痢・嘔吐



● 手足口病の感染経路

○ 飛沫感染

感染者が会話や咳、くしゃみをする時、ウイルスを含んだ飛沫が1～2mの範囲で飛び散り、目や鼻、口に入ることによって感染します。

○ 接触感染

感染者が触れた物や肌の表面にウイルスが残ることがあり、これらを触った手を介してウイルスが目、鼻、口に入ることによって感染します。

○ 糞口感染

糞口感染は感染者の便に含まれるウイルスが口に入ることによって感染します。
感染者の水疱や便には、ウイルスが含まれるため注意が必要です。



手足口病に有効なワクチンなどはありません。手洗いやうがいの徹底が基本的な対策です。年齢的に可能であればマスクも着用しましょう。

患者さんの家族だけでなく、保育園などの職員や子どもたち全員がしっかり手洗いとうがいをするのが大切です。オムツを交換したあとは、排泄物を適切に処理して、石鹸と流水でしっかりと手を洗ってください。タオルの共有も避けましょう。

また、発疹が消えたあとも3～4週間は便にウイルスが含まれています。そのため、この期間もオムツなどの排泄物を適切に処理して、十分に手洗いを行う必要があります。

●手足口病の合併症

手足口病は、重症化するとまれに以下のような合併症を引き起こすことがあります。

○髄膜炎

脳や脊髄を覆っている髄膜に炎症が起き、さまざまな症状を引き起こす病気。発熱や頭痛、嘔吐、首のこわばり、意識障害などの症状が現れる。

○脳炎

脳自体に炎症が起きる病気。髄膜炎と同様に発熱や頭痛、嘔吐、首のこわばり、意識障害などの症状が現れる。

○心筋炎

心臓を構成している筋肉に炎症が起きる病気。発熱やのどの痛み、下痢、胸の痛み、息苦しさ、意識障害などの症状が現れる。

手足口病は、口の中の痛みにより水分補給が進まず、脱水症を引き起こすことがあります。

子どもが口の中に痛みがある場合は「食べたり飲んだりしない」「いつもよりよだれが多い」「冷たい飲み物しか飲まない」などの様子が見られます。これらの様子が現れている場合は、水分補給が進まないため特に脱水症に注意してください。



マダニの感染症

重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

に注意しましょう！！

- マダニが媒介するウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を予防するためにはマダニに咬まれないようにすることが重要です。
- マダニの活動が盛んな、春から秋に多くの発生が見られることから、農作業やレジャーなどで、森林や草むら、藪などに入る場合には十分注意しましょう。

マダニ媒介SFTSとは・・・

これまでに中国・日本・韓国でSFTSの患者が報告されています。中国ではフタトゲチマダニとオウシマダニからウイルスが見つかっています。

ウイルスの潜伏期間は（マダニに咬まれてから）6日～2週間とされています。

SFTS患者は5～8月に多く発症しています。

長崎県ではここ数年は12～13件発症しており、

2026年7月現在ではすでに6件発症報告があります。



1. マダニの生息場所



マダニは、シカやイノシシ、野ウサギなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。

マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。



2. マダニから身を守る服装

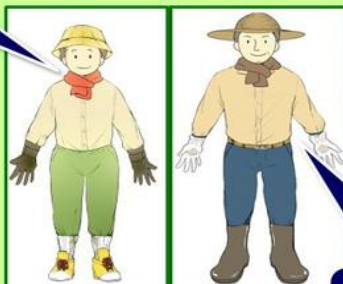
野外では、腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう！

首にはタオルを巻くか、
ハイネックのシャツを
着用しましょう。



半ズボンやサンダル履き
は不適当です！

ハイキングなどで山林に入る
場合は、**ズボンの裾**に靴下
を被せましょう。



シャツの袖口は
軍手や手袋の中に
入れましょう。



シャツの裾はズボン
の中に入れましょう。



農作業や草刈などでは
ズボンの裾は長靴
の中に入れましょう。

3. マダニから身を守る方法

上着や作業着は、
家の中に持ち込まない
ようにしましょう。



屋外活動後は、
シャワーや入浴で、
ダニが付いていないか
チェックしましょう。



ガムテープ
を使って服に
付いたダニを
取り除く方法
も効果的です。

ダニ類の多くは、長時間（10日間以上のこともある）吸血します。吸血中のマダニを無理に取り除こうとすると、マダニの口器が皮膚の中に残り化膿することがあるので、皮膚科等の医療機関で、適切な処置（マダニの除去や消毒など）を受けて下さい。

マダニに咬まれたら、
数週間程度は体調の変化に注意し、発熱等の症状が認められた場合は、医療機関で診察を受けて下さい。

できていますか？上手な手洗い

人が感染する要因の多くは、手に病原微生物(細菌・ウイルス等)が付着し、そこから手を介して鼻や口、目から体内に入ることです。多くの病原微生物は、電車のつり革・手すり・エレベーターボタン・ドアノブを介して手から手へと拡がり、それが感染拡大のきっかけとなります。手は見た目には汚れていなくても、病原微生物が付着している可能性があります。

必ず石けんと流水を用いてきれいに洗い流す習慣を身に着けることが、感染対策の基本であり、最も重要な手段と言えるのです。



※アルコールは、ノロウイルスの不活化にはあまり効果がないといわれています。

